

数学Ⅲ

特色

本書は、学習指導要領をふまえ、各単元の標準的なレベルの問題を、年間を通じてじっくり完全マスターし、あわせて、受験への基礎対策用としても使用できるように編集されています。

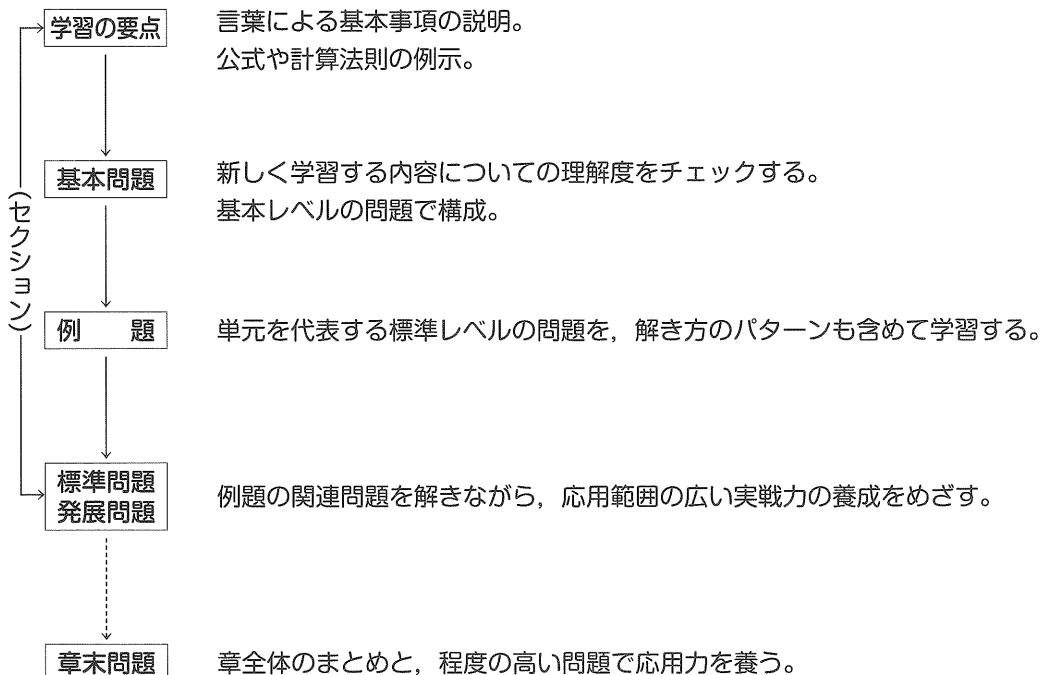
数学は体系が整然としている学問ですから、1つの単元を把握するためには、それを構成している基本事項を正確に理解し、さらに、その単元における典型的な問題の解法パターンを習得することが必要です。

そこで本書では、各単元において、基本事項や重要事項を習得するための基本レベルの問題を取り上げ、それらを反復練習することで基礎を固め、続いて、単元の内容をより深く理解する上で必須となる標準レベルの問題を精選して、その解き方をパターンとして学ぶことによって、幅広い応用力が定着するようにしました。

構成

- 数学Ⅲで学習する事項を、7章51セクションに分けました。
- 各セクションは原則として見開き2ページ構成で、年間計画がたてやすいよう配慮されています。

☆1 セクションの構成



もくじ

1章 複素数平面	
1 複素数平面	4
2 複素数の極形式	6
3 ド・モアブルの定理	8
4 図形と複素数(1)	10
5 図形と複素数(2)	12
6 いろいろな問題	14
章末問題	16
2章 いろいろな曲線	
7 方程式の表す曲線	18
8 放物線	20
9 楕円	22
10 双曲線	24
11 2次曲線と直線	26
12 2次曲線の性質	28
13 媒介変数表示(1)	30
14 媒介変数表示(2)	32
15 極座標と極方程式	34
16 いろいろな問題	36
章末問題	38
3章 関数と極限	
17 分数関数、無理関数	40
18 逆関数、合成関数	42
19 数列の極限	44
20 無限等比数列	46
21 無限級数(1)	48
22 無限級数(2)	50
23 関数の極限(1)	52
24 関数の極限(2)	54
25 関数の連続性	56
26 いろいろな問題	58
章末問題	60
4章 微分法	
27 微分係数と導関数	62
28 導関数の計算	64
29 三角関数の導関数	66
30 対数関数と指数関数の導関数	68
31 いろいろな関数の導関数	70
32 いろいろな問題	72
章末問題	74
5章 微分法の応用	
33 接線と法線、平均値の定理	76
34 関数の増減と極大・極小	78
35 関数の最大・最小	80
36 曲線の凹凸、グラフの概形	82
37 方程式・不等式への応用	84
38 速度と加速度、近似式	86
39 いろいろな問題	88
章末問題	90
6章 積分法	
40 不定積分	92
41 置換積分法、部分積分法	94
42 定積分	96
43 定積分の置換積分法、部分積分法	98
44 定積分で表された関数	100
45 定積分と数列	102
46 いろいろな問題	104
章末問題	106
7章 積分法の応用	
47 面積(1)	108
48 面積(2)	110
49 体積	112
50 曲線の長さ、速度と道のり	115
51 いろいろな問題	117
章末問題	119
重要事項	121

1 章

複素数平面

1

複素数平面

☆学習の要点☆

① 複素数平面

(1) 複素数 $z=a+bi$ を座標平面上の点 $P(a, b)$ で表すとき、この平面を複素数平面という。

また、この点 P を $P(z)$ または点 z と書く。

(2) x 軸を実軸、 y 軸を虚軸という。

(3) 複素数 z の共役複素数を \bar{z} で表す。 $z=a+bi$ のとき、 $\bar{z}=a-bi$

z が実数 $\iff \bar{z}=z$

z が純虚数 $\iff \bar{z}=-z$ ただし、 $z \neq 0$

(4) 複素数 z の絶対値を $|z|$ で表す。 $z=a+bi$ のとき、 $|z|=\sqrt{a^2+b^2}$

② 複素数の性質

(1) 共役複素数

$$\textcircled{1} \quad \overline{\alpha+\beta} = \bar{\alpha} + \bar{\beta}$$

$$\textcircled{2} \quad \overline{\alpha-\beta} = \bar{\alpha} - \bar{\beta}$$

$$\textcircled{3} \quad \overline{\alpha\beta} = \bar{\alpha}\bar{\beta}$$

$$\textcircled{4} \quad \overline{\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)} = \frac{\bar{\alpha}}{\bar{\beta}}$$

(2) 複素数の絶対値

$$\textcircled{1} \quad |z|=|-z|=|\bar{z}|$$

$$\textcircled{2} \quad z\bar{z}=|z|^2$$

$$\textcircled{3} \quad |\alpha\beta|=|\alpha||\beta|$$

$$\textcircled{4} \quad \left|\frac{\alpha}{\beta}\right| = \frac{|\alpha|}{|\beta|}$$

③ 複素数の演算 $\alpha=a+bi$, $\beta=c+di$ とする。

(1) 複素数の実数倍 3点 0 , α , β が一直線上にある $\iff \beta=k\alpha$ となる実数 k がある

(2) 複素数の和 $\alpha+\beta=(a+c)+(b+d)i$

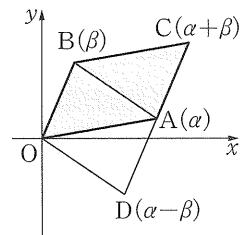
右の図で、四角形 $OACB$ は平行四辺形である。

(3) 複素数の差 $\alpha-\beta=(a-c)+(b-d)i$

右の図で、四角形 $ODAB$ は平行四辺形である。

④ 2点間の距離

2点 α , β 間の距離は、 $|\beta-\alpha|$



●基本問題●

1 [複素数平面上の位置] 複素数平面上に次の複素数を表す点を図示せよ。

(1) $1+3i$

(2) $2-i$

(3) $(1+i)^2$

2 [共役複素数] 次の複素数の共役複素数を求めよ。

(1) $(3-2i)+(1+4i)$

(2) $(1+i)(2-3i)$

3 [複素数の絶対値] 次の複素数の絶対値を求めよ。

(1) $1+\sqrt{3}i$

(2) $(2+3i)(\sqrt{3}-i)$

4 [2点間の距離] 次の2点間の距離を求めよ。

(1) $i, 2-3i$

(2) $3+2i, 7-5i$

例題 1 共役複素数の性質

複素数 z について、 $|z|=1$ のとき、 $z+\frac{1}{\bar{z}}$ は実数であることを証明せよ。

着眼点 α が実数 $\iff \bar{\alpha}=\alpha$ が成り立つ。また、 $|z|^2=1^2$ より、 $z\bar{z}=1$ となる。

証明 $|z|=1$ の両辺を2乗すると、 $|z|^2=1^2 \quad z\bar{z}=1$ より、 $\bar{z}=\frac{1}{z}$

$$\text{よって}, \overline{z+\frac{1}{z}}=\bar{z}+\overline{\left(\frac{1}{z}\right)}=\bar{z}+\frac{1}{\bar{z}}=\frac{1}{z}+z=z+\frac{1}{z}$$

つまり、 $z+\frac{1}{z}$ は実数である。

5 類題 複素数 z について、 $|z|=1$ のとき、 $z^n+\frac{1}{\bar{z}^n}$ （ n は自然数）は実数であることを証明せよ。

▶標準問題——◀◀

6 $|z|=\sqrt{5}$, $z+\bar{z}=2$ のとき、複素数 z を求めよ。

7 $\left(\alpha+\frac{1}{\bar{\alpha}}\right)\left(\bar{\alpha}+\frac{1}{\alpha}\right)=4$ のとき、複素数 α の絶対値 $|\alpha|$ を求めよ。

8 x の n 次方程式 $a_0x^n+a_1x^{n-1}+a_2x^{n-2}+\cdots+a_n=0$ が複素数 α を解にもつとき、共役複素数 $\bar{\alpha}$ もこの方程式の解になることを証明せよ。ただし、 $a_0, a_1, a_2, \dots, a_n$ は実数とする。

9 $\alpha=a+2i$, $\beta=6+3i$ とする。2点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$ と原点 O が一直線上にあるとき、実数 a を求めよ。

◆発展問題——◆◆

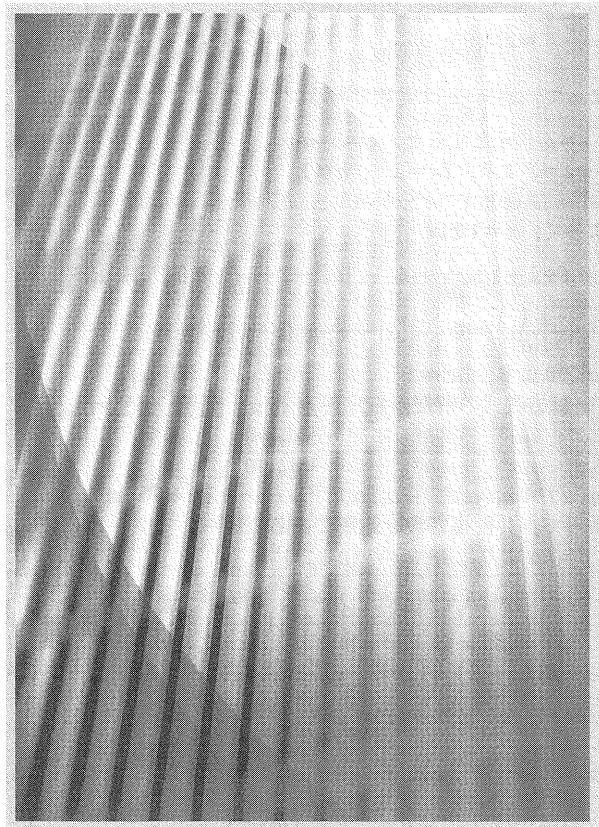
10 複素数 α, β が $|\alpha|=|\beta|=|\alpha-\beta|=1$ を満たすとき、 $\frac{\beta}{\alpha}$ を求めよ。

ヒント $z=\frac{\beta}{\alpha}$ とおき、 $z+\bar{z}, z\bar{z}$ の値を求めて、 z を解にもつ2次方程式を考える。

高校ゼミ・エセンス

数学Ⅲ

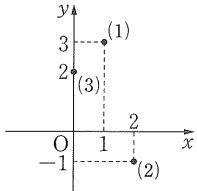
解答編



1章 複素数平面

【p. 4】 1 複素数平面

1 (3) $(1+i)^2 = 1+2i+i^2 = 1+2i-1=2i$



2 (1) $z=4+2i$ より, $\bar{z}=4-2i$

(2) $z=2-3i^2-i=5-i$ より, $\bar{z}=5+i$

3 (1) $|1+\sqrt{3}i|=\sqrt{1+(\sqrt{3})^2}=2$

$$(2) |(2+3i)(\sqrt{3}-i)|=|2+3i||\sqrt{3}-i| \\ =\sqrt{2^2+3^2}\sqrt{(\sqrt{3})^2+(-1)^2}=2\sqrt{13}$$

4 (1) $\sqrt{(2-0)^2+(-3-1)^2}=\sqrt{20}=2\sqrt{5}$

(2) $\sqrt{(7-3)^2+(-5-2)^2}=\sqrt{65}$

【p. 5】

5 類題 $|z|^2=1^2$ より, $z\bar{z}=1 \quad \bar{z}=\frac{1}{z}$

$$\begin{aligned} z^n + \frac{1}{z^n} &= \bar{z}^n + \frac{1}{\bar{z}^n} = (\bar{z})^n + \frac{1}{(\bar{z})^n} = \frac{1}{z^n} + z^n \\ &= z^n + \frac{1}{z^n} \end{aligned}$$

よって, $z^n + \frac{1}{z^n}$ は実数である。

6 $z=a+bi$ とすると, $\bar{z}=a-bi$

$z+\bar{z}=2$ より, $2a=2 \quad a=1$

$|z|^2=(\sqrt{5})^2 \quad a^2+b^2=5 \quad b^2=4 \quad b=\pm 2$

よって, $z=1\pm 2i$

7 $a\bar{a}+1+1+\frac{1}{a\bar{a}}=4 \quad |\alpha|^2-2+\frac{1}{|\alpha|^2}=0$

$$\left(|\alpha|-\frac{1}{|\alpha|}\right)^2=0 \quad |\alpha|-\frac{1}{|\alpha|}=0 \quad |\alpha|^2=1$$

$|\alpha|\geq 0$ より, $|\alpha|=1$

8 α は方程式の解だから,

$a_0\alpha^n+a_1\alpha^{n-1}+a_2\alpha^{n-2}+\dots+a_n=0$

$a_0\bar{\alpha}^n+a_1\bar{\alpha}^{n-1}+a_2\bar{\alpha}^{n-2}+\dots+a_n=0$

$a_0(\alpha)^n+a_1(\bar{\alpha})^{n-1}+a_2(\bar{\alpha})^{n-2}+\dots+a_n=0$

よって, 共役複素数 $\bar{\alpha}$ も解である。

9 $\beta=k\alpha$ より, $6+3i=k(a+2i)$

$6=ka, 3=2k$ を解いて, $k=\frac{3}{2}, \alpha=4$

10 $|\alpha|^2=|\beta|^2=|\alpha-\beta|^2=1^2$ より, $a\bar{a}=1, \beta\bar{\beta}=1$
 $(\alpha-\beta)(\bar{\alpha}-\bar{\beta})=1$ より, $a\beta+\bar{a}\bar{\beta}=1$

$$z=\frac{\beta}{\alpha} \text{ とおくと, } z+\bar{z}=\frac{\beta}{\alpha}+\frac{\bar{\beta}}{\alpha}=\frac{\bar{a}\beta+a\bar{\beta}}{a\alpha}=1$$

$$\bar{z}z=\frac{\beta\bar{\beta}}{\alpha\bar{\alpha}}=1 \quad z \text{ は } x^2-x+1=0 \text{ の解だから,}$$

$$z=\frac{1\pm\sqrt{3}i}{2} \quad \text{つまり, } \frac{\beta}{\alpha}=\frac{1\pm\sqrt{3}i}{2}$$

【p. 6】 2 複素数の極形式

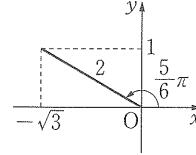
11 (1) $\cos\frac{\pi}{2}+i\sin\frac{\pi}{2}$

(2) $\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4}+i\sin\frac{\pi}{4}\right)$

(3) $|\sqrt{3}+i|=\sqrt{3+1}=\sqrt{4}=2$

図より, $\theta=\frac{5}{6}\pi$

与式 $=2\left(\cos\frac{5}{6}\pi+i\sin\frac{5}{6}\pi\right)$



(4) $|\sqrt{5}|=\sqrt{5}$

与式 $=\sqrt{5}\left(\cos\pi+i\sin\pi\right)$

12 (1) $z=2-2i$ とおく。

絶対値 $|z|=\sqrt{2^2+(-2)^2}=\sqrt{8}=2\sqrt{2}$

偏角 $\arg z=-\frac{\pi}{4}+2n\pi$ (n は整数)

(2) $z=2i$ とおく。

絶対値 $|z|=\sqrt{0^2+2^2}=\sqrt{4}=2$

偏角 $\arg z=\frac{\pi}{2}+2n\pi$ (n は整数)

13 $\alpha=2\left(\cos\frac{\pi}{3}+i\sin\frac{\pi}{3}\right)$

$\beta=\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4}+i\sin\frac{\pi}{4}\right)$

$\alpha\beta=2\sqrt{2}\left\{\cos\left(\frac{\pi}{3}+\frac{\pi}{4}\right)+i\sin\left(\frac{\pi}{3}+\frac{\pi}{4}\right)\right\}$

$$=2\sqrt{2}\left(\cos\frac{7}{12}\pi+i\sin\frac{7}{12}\pi\right)$$

絶対値 $|\alpha\beta|=|\alpha||\beta|=2\sqrt{2}=2\sqrt{2}$

偏角 $\arg\alpha\beta=\arg\alpha+\arg\beta=\frac{\pi}{3}+\frac{\pi}{4}=\frac{7}{12}\pi$

14 $\alpha=2\left(\cos\frac{\pi}{3}+i\sin\frac{\pi}{3}\right)$

$\beta=\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{4}+i\sin\frac{\pi}{4}\right)$

$$\frac{\alpha}{\beta}=\frac{2}{\sqrt{2}}\left\{\cos\left(\frac{\pi}{3}-\frac{\pi}{4}\right)+i\sin\left(\frac{\pi}{3}-\frac{\pi}{4}\right)\right\}$$

$$=\sqrt{2}\left(\cos\frac{\pi}{12}+i\sin\frac{\pi}{12}\right)$$

絶対値 $\left|\frac{\alpha}{\beta}\right|=\frac{|\alpha|}{|\beta|}=\frac{2}{\sqrt{2}}=\sqrt{2}$

偏角 $\arg\frac{\alpha}{\beta}=\arg\alpha-\arg\beta=\frac{\pi}{3}-\frac{\pi}{4}=\frac{\pi}{12}$

【p. 7】

15 類題 $z=(1+i)(1+\sqrt{3}i)$

$$=(1-\sqrt{3})+(1+\sqrt{3})i \cdots \textcircled{1}$$

また,

$$z=\{\sqrt{2}(\cos 45^\circ+i\sin 45^\circ)\}\{2(\cos 60^\circ+i\sin 60^\circ)\} \\ =2\sqrt{2}(\cos 105^\circ+i\sin 105^\circ) \cdots \textcircled{2}$$

①, ②の実部, 虚部を比べて,

$$2\sqrt{2}\cos 105^\circ=1-\sqrt{3}, 2\sqrt{2}\sin 105^\circ=1+\sqrt{3}$$

よって,

$$\cos 105^\circ=\frac{\sqrt{2}-\sqrt{6}}{4}, \sin 105^\circ=\frac{\sqrt{2}+\sqrt{6}}{4}$$

16 (1) $\cos\left(\frac{\pi}{2}-\theta\right)+i\sin\left(\frac{\pi}{2}-\theta\right)$

(2) $2\{\cos(-\theta)+i\sin(-\theta)\}$

17 $z=\frac{(1-\sin\theta+i\cos\theta)^2}{(1-\sin\theta)^2+\cos^2\theta}$